

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5570342号
(P5570342)

(45) 発行日 平成26年8月13日 (2014. 8. 13)

(24) 登録日 平成26年7月4日 (2014. 7. 4)

(51) Int. Cl.

F I

A O 1 K 85/01 (2006. 01)

A O 1 K 85/01

A

A O 1 K 85/16 (2006. 01)

A O 1 K 85/16

請求項の数 4 (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2010-171705 (P2010-171705)
 (22) 出願日 平成22年7月30日 (2010. 7. 30)
 (65) 公開番号 特開2012-29621 (P2012-29621A)
 (43) 公開日 平成24年2月16日 (2012. 2. 16)
 審査請求日 平成24年8月31日 (2012. 8. 31)

(73) 特許権者 000002495
 グローブライド株式会社
 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号
 (74) 代理人 100064414
 弁理士 磯野 道造
 (74) 代理人 100111545
 弁理士 多田 悦夫
 (72) 発明者 若林 健一
 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号
 グローブライド株式会社内

審査官 木村 隆一

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ルアー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ルアー本体と、前記ルアー本体の前後方向に沿って前記ルアー本体に固定された固定部材と、前記固定部材に設けられ、前記ルアー本体の前後方向に沿い棒状の化学発光体を保持する保持部と、を備えたルアーであって、

前記ルアー本体の前端下面にねじで固定されたカップを有し、

前記固定部材は、前記ルアー本体の上面に非支持状態で、かつ前記上面との間に隙間を有して配置されるとともに、前方へ延設された延設部を有しており、

前記延設部は、前記ルアー本体の前面下面に向けて折り返され、前記ルアー本体の前面下面と前記カップとの間に介設されて前記ねじで固定される固定部を有しており、

前記保持部に、前記化学発光体を軸方向に直交する方向から挟持して抜け止め係止する係止部を設けたことを特徴とするルアー。

【請求項 2】

前記保持部は、前記ルアー本体の前後方向に間隔を空けて少なくとも2つ配置されており、

前記2つの保持部のうち一方の保持部は、キャップ状に形成されて、前記化学発光体の軸方向における一端部を保持することを特徴とする請求項1に記載のルアー。

【請求項 3】

前記保持部はリングで構成されていることを特徴とする請求項1または請求項2に記載のルアー。

10

20

【請求項 4】

前記保持部は、前記ルアー本体の前後方向に沿って上方へ向けて突設された対向壁部からなり、

前記対向壁部間で前記化学発光体を挟持可能としたことを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載のルアー。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、魚釣りに用いるルアーに関し、特に、夜、早朝、夕方等の時間帯において視認性に優れたルアーに関するものである。

10

【背景技術】

【0002】

従来、夜、早朝、夕方等の暗い時間帯に使用されるルアーとして、視認性を高めるために化学発光体を具備したものが知られている（例えば、特許文献 1，2 参照）。

特許文献 1 のルアーでは、ルアー本体に穴が形成されており、この穴に棒状の化学発光体が挿し込まれて装着されるように構成されている。

【0003】

また、特許文献 2 のルアーでは、ルアー本体の上部に化学発光体を収容する空洞部材が取り付けられ、この空洞部材の両端部が栓で閉じられるように構成されている。

このような化学発光体を使用したルアーでは、化学発光体の発光により、ルアーがどこにあるのか把握し易く、狙うべきポイントに好適にルアーを投擲することができる。また、ルアーの位置を把握し易いので、根がかりに起因するルアーの紛失も好適に回避することができる。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】登録実用新案第 3050037 号公報

【特許文献 2】実開平 6 - 13466 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

30

【0005】

しかしながら、特許文献 1 のルアーでは、ルアー本体に形成された穴に棒状の化学発光体が挿し込まれて装着される構成であるので、穴の径にフィットする化学発光体しか挿し込むことができず、穴の径に対応しない化学発光体は使用することができなかった。化学発光体の大部分が隠れてしまい視認性に劣っていた。

また、特許文献 2 のルアーでは、空洞部材に化学発光体を挿入して栓で閉じる構成であるので、空洞部材よりも太径の化学発光体は挿入することができなかった。また、空洞部材内に収まらない長さを備えた化学発光体も使用することができず、限られた化学発光体しか使用することができなかった。

【0006】

40

本発明は、このような問題を解決するためになされたものであり、種々の大きさの化学発光体を装着することができ、使い勝手のよいルアーを提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

このような課題を解決する本発明のルアーは、ルアー本体と、前記ルアー本体の前後方向に沿って前記ルアー本体に固定された固定部材と、前記固定部材に設けられ、前記ルアー本体の前後方向に沿い棒状の化学発光体を保持する保持部と、を備えたルアーであって、前記ルアー本体の前端下面にねじで固定されたカップを有し、前記固定部材は、前記ルアー本体の上面に非支持状態で、かつ前記上面との間に隙間を有して配置されるとともに、前方へ延設された延設部を有しており、前記延設部は、前記ルアー本体の前面下面に向

50

けて折り返され、前記ルアー本体の前面下面と前記カップとの間に介設されて前記ねじで固定される固定部を有しており、前記保持部に、前記化学発光体を軸方向に直交する方向から挟持して抜け止め係止する係止部を設けたことを特徴とする。

ここで、ルアー本体の前後方向とは、リトリブ時におけるルアーの姿勢を基準として、進行方向に向く側を前とし、これとは反対方向に向く側を後としたときの方向である。

【0008】

このルアーによれば、ルアー本体の前後方向に沿う保持部に、棒状の化学発光体を保持することができる。保持部に設けられた係止部は、化学発光体を軸方向に直交する方向から挟持して抜け止め係止するようになっているので、化学発光体を、軸方向（長さ方向）から規制することなく保持することができる。

10

【0010】

また、保持部を固定部材に一体的に設けることができる。また、固定部材に沿うようにして化学発光体を保持することができる。

【0011】

また、本発明は、前記保持部は、前記ルアー本体の前後方向に間隔を空けて少なくとも2つ配置されており、前記2つの保持部のうち一方の保持部は、キャップ状に形成されて、前記化学発光体の軸方向における一端部を保持することを特徴とする。

【0012】

このルアーによれば、キャップ状の保持部に挿入するだけで化学発光体の軸方向の一端部を保持することができる。また、化学発光体の装着時には、キャップ状の保持部に化学発光体の軸方向の一端部を挿入して保持しておいてから、他方の保持部で他端部側を挟持するという装着手法を採ることができる。

20

【0013】

また、本発明は、前記保持部がリングで構成されていることを特徴とする。

【0014】

このルアーによれば、化学発光体をリングの弾性を利用して挟持することができる。

また、本発明は、前記2つの保持部のうち他方の保持部は、リングで構成されていることを特徴とする。

また、本発明は、前記保持部は、前記ルアー本体の前後方向に沿って上方へ向けて突設された対向壁部からなり、前記対向壁部間で前記化学発光体を挟持可能としたことを特徴とする。

30

【発明の効果】

【0015】

本発明によれば、保持部に設けられた係止部は、化学発光体を軸方向に直交する方向から挟持して抜け止め係止するようになっているので、軸方向（長さ方向）から規制することなく挟持することができ、太さの異なる化学発光体も、化学発光体の軸方向に直交する方向から柔軟に挟持することができる。

また、化学発光体を軸方向（長さ方向）から規制することなく保持することができるので、軸方向に長く形成された化学発光体もその中間部分等を軸方向に直交する方向から好適に挟持することができる。したがって、太さや長さの異なる種々の化学発光体を装着することができ、視認性に優れて使い勝手のよいルアーが得られる。

40

【0016】

また、保持部を固定部材に一体的に設けることができるので、保持部と固定部材とが組み付けられたものを1つの部品として扱うことができ、組み付けが簡単になるとともに、生産性が高まる。また、固定部材に沿わせるようにして棒状の化学発光体を保持することができるので、装着性がよく、また、装着後は、化学発光体に沿う固定部材を化学発光体を保持するための保持部材として機能させることも可能となり、化学発光体の脱着し難い保持構造が得られる。したがって、化学発光体の紛失を好適に回避して手返しが向上され、使い勝手のよいルアーが得られる。

【0017】

50

また、2つの保持部のうち一方の保持部がキャップ状に形成されたものにおいては、キャップ状の保持部に挿入するだけで化学発光体の軸方向の一端部を保持することができ、化学発光体の装着性がよい。また、化学発光体の装着時には、キャップ状の保持部に化学発光体の軸方向の一端部を挿入して保持しておいてから、他方の保持部に他端部側を装着してこれを挟持するという装着手法を採ることができるので、装着時に不意に外れて脱落してしまうようなことがなくなり、装着性が向上する。

【0018】

また、保持部がリングで構成されているものにおいては、化学発光体をリングの弾性を利用して挟持することができ、装着性に優れるとともに、取り外し性にも優れる。

また、軸方向の滑り止め効果が高まり、化学発光体の脱落を好適に防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】本発明の第1実施形態に係るルアーを示した図であり、(a)は斜視図、(b)は正面図、(c)は側面図、(d)は図1(c)の側面図に対する平面図である。

【図2】(a)は図1(a)のA-A線矢視における保持部の保持の様子を示した模式拡大断面図、(b)は挟持の様子を示した模式拡大断面図、(c)は変形例の保持部における保持の様子を示した模式拡大断面図、(d)は同じく挟持の様子を示した模式拡大断面図、(e)は変形例の保持部における保持の様子を示した模式拡大断面図、(f)は同じく挟持の様子を示した模式拡大断面図、(g)(f)は、変形例の保持手段を示す側面図である。

【図3】本発明の第2実施形態に係るルアーの要部を示した図であり、(a)は拡大斜視図、(b)は部分断面図である。

【図4】本発明の第3実施形態に係るルアーの要部を示した図であり、(a)は拡大斜視図、(b)は構造を示す拡大断面図、(c)(d)は装着時の様子を示す拡大断面図である。

【図5】本発明に係るルアーの参考例を示す図であり、(a)は要部の斜視図、(b)(c)は取付時の様子を示す断面図である。

【図6】(a)~(c)は本発明に係るルアーのその他の参考例を示す要部の斜視図、(d)はその他の参考例を示す断面図、(e)は図6(d)に示した参考例の装着時の様子を示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0020】

以下、本発明に係るルアーの実施の形態について図面を参照しながら説明する。各実施形態において、同一の部分には同一の符号を付し、重複する説明は省略する。以下の説明において、ルアーの方向を言うときは、図1(a)に示した方向を基準として説明する。

【0021】

(第1実施形態)

図1各図に示すように、ルアー1は、外形を虫に似せて形成されたルアー本体10と、ルアー本体10の前側に設けられた保持手段20と、この保持手段20に保持された化学発光体30と、を備えて構成されている。

ルアー本体10は、リトリブ時に進行方向に向く前側、およびこれとは反対方向に向く後側がともに流線型とされており、前端下面10a(図1(c)参照、以下同じ)にカップ11が取り付けられている。また、図1(c)に示すように、ルアー本体10の下部10bには、取付金具12、12を介して前後に2つのフック13、13が取り付けられている。

【0022】

カップ11は、左右方向に膨出する平面視で略長丸形状(図1(d)参照)とされており、中央部11aが、図1(b)に示すように、2本のねじ11bでルアー本体10の前端下面10aに固着されている。

10

20

30

40

50

本実施形態では、このカップ 11 の中央部 11 a とルアー本体 10 の前端下面 10 a との間に、保持手段 20 を構成する固定部材 23 の固定部 23 b が挟持されて固定されている。

また、カップ 11 の先端部 11 c は前方へ突出しており、この部分にアイ 11 d が取り付けられている。

このようなカップ 11 は、リトリブ時に前側から流れこむ水を左右それぞれの方向へ排出するように作用し、これによって、ルアー本体 10 に独特の揺れを生じさせたり、音を生じさせるようになっている。

【0023】

保持手段 20 は、保持部 21, 22 と、保持部 21, 22 を連結して固定する固定部材 23 と、を備えており、ルアー本体 10 の前側上部の上方となる視認性のよい位置において化学発光体 30 を保持（挟持）するように構成されている。本実施形態では、1枚の可撓性を有する金属板を切断および折り曲げ加工することで、保持部 21, 22 および固定部材 23 が一体的に形成されている。なお、樹脂材によって保持手段 20 を形成することもできる。

【0024】

保持部 21, 22 は、ルアー本体 10 の前後方向に間隔を空けて配置されており、図 1 各図に示すように、化学発光体 30 の軸方向の一端部側（前端側）および他端部側（後端側）を挟持して保持する。

保持部 21, 22 は、同一の形状とされており、ここでは、説明の便宜上、後側の保持部 22 について説明し、必要に応じて前側の保持部 21 について説明する。

保持部 22 は、図 2 (a) に示すように、正面視で略コ字形状を呈しており、化学発光体 30 の軸方向に直交する方向（本実施形態では左右方向）から化学発光体 30 の外周面に当接可能であり、化学発光体 30 を左右方向から挟持可能である。

【0025】

ここで、保持部 22 の高さを $H1$ とし、化学発光体 30 の直径を $D1$ とすると、これらの関係が $H1 > D1$ となるように設定されており、固定部材 23 に当接する位置まで化学発光体 30 が挿し込まれることで、保持部 22 は、図 2 (b) に示すように、化学発光体 30 の上側に向けて折り曲げ可能な折り曲げ代 22 a を有するようになっている。

本実施形態では、保持部 22（化学発光体 30 の外周面に当接する部位）、および折り曲げ代 22 a が、化学発光体 30 を軸方向に直交する方向から挟持して抜け止め係止する係止部として機能するようになっている。

なお、保持部 22 の高さ $H1$ および化学発光体 30 の直径 $D1$ は、必ずしも前記した関係（ $H1 > D1$ ）となるように設定する必要はなく、例えば、保持部 22 の高さ $H1$ を化学発光体 30 の半径（ $D1 / 2$ ）よりも若干大きくなる程度に設定して、保持部 22 の先端部で化学発光体 30 を加締めるようにして保持してもよい。また、折り曲げ代 22 a を化学発光体 30 の外周面に向けて折り曲げることなく、保持部 22 を化学発光体 30 の外周面に当接させるだけで、化学発光体 30 を挟持して保持してもよい。

【0026】

固定部材 23 は、図 1 (c) に示すように、ルアー本体 10 の上面形状に対応した緩やかな湾曲形状とされており、前方へ延設された延設部 23 a を有している。延設部 23 a は、ルアー本体 10 の前端下面 10 a に向けて折り返されており、ルアー本体 10 の前端下面 10 a とカップ 11 の中央部 11 a との間に介設される平板状の固定部 23 b を形成している。

固定部 23 b には、図 1 (b) に示すように、ねじ 11 b, 11 b に対応した位置に、ねじ 11 b, 11 b を挿通可能とする切欠き 23 c, 23 c が形成されている。これにより、ルアー本体 10 の前端下面 10 a とカップ 11 の中央部 11 a との間に固定部 23 b を挟んで、カップ 11 の下方からねじ 11 b, 11 b を螺合することで、ルアー本体 10 の前端下面 10 a に保持手段 20 とカップ 11 とを一緒に固定することができるようになっている。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 7 】

また、固定部材 2 3 の後端部 2 4 は、図 1 (a) (d) に示すように、左右方向に二股に形成されているとともに、図 1 (c) に示すように、上方へ一段高くなるように形成されている。このように形成することによって、保持部 2 2 を超えて後方へ長く延びるような全長を有する化学発光体 3 0 (図 2 (h) 参照) を、下側から包むようにして好適に保持することができる。これにより、安定した化学発光体 3 0 の保持が可能となる。

【 0 0 2 8 】

なお、図 1 (c) に示すように、固定部材 2 3 は、ルアー本体 1 0 の上面との間に隙間 S を有して配置されており、リトリブ時等に生じる振動でルアー本体 1 0 の上面へ接触することが防止されている。これによって、ルアー本体 1 0 の上面が金属製の固定部材 2 3 によって傷付くことがない。なお、隙間 S を積極的に狭く形成して、リトリブ時等に生じる振動で固定部材 2 3 がルアー本体 1 0 の上面に当接するようにして音を生じるように構成してもよい。

【 0 0 2 9 】

化学発光体 3 0 は、細長い棒状とされ、可撓性を有する略円筒状の合成樹脂製容器内に 2 種類の液体が充填されてなり、使用時に容器を曲げて 2 種類の液体を混合させることで化学発光を生じるものである。化学発光体 3 0 は、例えば、釣具店やホームセンター等で販売されているものを挙げることができる。

このような化学発光体 3 0 は、軸方向の一端部側 (前端側) および他端部側 (後端側) を保持部 2 1 , 2 2 の開口から保持部 2 1 , 2 2 にそれぞれ挿し込むことで、保持手段 2 0 に装着される。

【 0 0 3 0 】

ここで、保持部 2 1 , 2 2 は、前記したように、保持部 2 2 の高さ H 1 と化学発光体 3 0 の直径 D 1 との関係が、 $H 1 > D 1$ となるように設定されているので、図 2 (b) に示すように、化学発光体 3 0 を固定部材 2 3 に当接する位置まで挿し込むことで、保持部 2 2 (2 1) の上端部を折り曲げ代 2 2 a (図 2 (b) において点線で図示) として利用することが可能となり、図 2 (b) に実線で示すように、この折り曲げ代 2 2 a を化学発光体 3 0 の上側に向けて加締めることができる。

これにより、化学発光体 3 0 の上側部分が保持部 2 2 (2 1) の上端部 (折り曲げ代 2 2 a) で部分的に覆われるようにして保持され、これによって、保持部 2 2 (2 1) 内に化学発光体 3 0 がしっかりと挟持されることとなる。

【 0 0 3 1 】

以上説明した本実施形態のルアー 1 によれば、2 つの保持部 2 1 , 2 2 によって、ルアー本体 1 0 の前後方向に間隔を空けた 2 点で棒状の化学発光体 3 0 を保持することができる。2 つの保持部 2 1 , 2 2 は、化学発光体 3 0 の軸方向に直交する方向から化学発光体 3 0 を挟持するように構成されているので、化学発光体 3 0 を、軸方向 (長さ方向) から規制することなく保持することができる。したがって、太さの異なる化学発光体 3 0 も、化学発光体 3 0 の軸方向に直交する方向から柔軟に挟持することができる。

また、化学発光体 3 0 を、軸方向 (長さ方向) から規制することなく保持することができるので、軸方向に長く形成された化学発光体 3 0 もその中間部分等を軸方向に直交する方向から好適に挟持することができる。したがって、太さや長さの異なる種々の化学発光体 3 0 を装着することができ、視認性に優れて使い勝手のよいルアー 1 が得られる。

【 0 0 3 2 】

また、化学発光体 3 0 は、下部側を除いて、保持部 2 1 , 2 2 で隠れる部分以外の部分が露出している。したがって、視認性に優れて使い勝手のよいルアー 1 が得られる。

また、化学発光体 3 0 は、保持部 2 1 , 2 2 に挿し込まれて挟持されるので、装着および取り外しが簡単であり、同様の保持手段 2 0 を備えた別のルアー 1 に対して、化学発光体 3 0 を付け替えることも可能となっており、経済的である。

また、ルアー本体 1 0 に化学発光体 3 0 を挟持するための構造を直接設ける必要がないので、ルアー本体 1 0 の金型変更が必要とならず、従来の金型をそのまま利用することが

10

20

30

40

50

できて、経済的である。

【0033】

また、2つの保持部21, 22を固定部材23を介して一体的に設けることができるので、2つの保持部21, 22と固定部材23とが組み付けられたもの(保持手段20)を1つの部品として扱うことができ、組み付けが簡単になるとともに、生産性が高まる。

また、固定部材23に沿わせるようにして棒状の化学発光体30を保持することができるので、装着性がよく、また、装着後は、化学発光体30に沿う固定部材23を化学発光体30を保持するための保持部材として機能させることも可能となり、化学発光体30の脱着し難い保持構造が得られる。したがって、化学発光体30の紛失を好適に回避して手返しが向上され、使い勝手のよいルアー1が得られる。

10

【0034】

なお、前記実施形態では、保持部21, 22を正面視で略コ字形状としたが、これに限られることはなく、例えば、図2(c)に示すように、正面視で略U字形状となるようにしてもよい。この場合には、固定部材23も保持部21, 22に対応して、湾曲凹形状とすることが望ましい。このように略U字形状とされた保持部21, 22では、図2(d)に示すように、折り曲げ部22aを化学発光体30に外周面に対応させて湾曲させてもよいし、図2(b)に示すように、折り曲げて加締めてもよい。

このように正面視で略U字形状とされた保持部21, 22とすることにより、保持部21, 22と化学発光体30との接触面積を増やすことができ、化学発光体30がより脱着し難い保持構造とすることができる。

20

【0035】

また、図2(e)(f)に示すように、外方に弾性変形可能な保持部21, 22に突出部22b, 22b(係止部として機能する部分)を設けて、この突出部22b, 22bで保持部21, 22内に挿し込まれた化学発光体30を弾性的に押さえるように構成してもよい。

【0036】

なお、保持手段20は、延設部23aに固定部23bを設けて、これをルアー本体10に固定するようにしたが、これに限られることはなく、固定部23bを設けることなく、延設部23aをルアー本体10の上面に、ねじ等で直接固定するように構成してもよい。この場合、固定部材23の後端を後方へ向けて延設し、この延設した部分をルアー本体10の上面に、ねじ等で直接固定するように構成してもよい。

30

【0037】

また、固定部材23は、ルアー本体10の形状に合わせて、図2(g)に示すように直線状としてもよく、また、図2(h)に示すように、湾曲状の度合いを高めて、可撓性を有する化学発光体30が固定部材23上に湾曲した状態で保持されるように構成してもよい。このように湾曲した状態で保持されるようにした場合でも、保持部22を超えて後方へ長く延びるような全長を有する化学発光体30を、後端部24で下側から包むようにして好適に保持することができる。

【0038】

(第2実施形態)

図3(a)(b)に本発明の第2実施形態のルアーの要部を示す。

本実施形態に係るルアーが前記第1実施形態と異なるところは、保持手段20の保持部として、合成ゴム製のリング40, 40を用いた点にある。

図3(a)に示すように、リング40, 40は、ルアー本体10(不図示)の前後方向に間隔を空けて固定部材23にそれぞれ取り付けられている。

【0039】

固定部材23においてリング40, 40を取り付ける位置には、プレス加工等によって、下方へ膨出形成された保持片23d, 23dが設けられている。保持片23dは、図3(b)に示すように、固定部材23の下面との間に開口23eを有しており、リング40は、この開口23eを通じて固定部材23の下面と保持片23dの上面との間に挟み

40

50

込まれて保持されるようになっている。

【 0 0 4 0 】

固定部材 2 3 に取り付けられた状態で、リング 4 0 , 4 0 の内側には、その弾性を利用して化学発光体 3 0 を挿通することが可能であり、リング 4 0 , 4 0 は、化学発光体 3 0 の軸方向の一端部側（前端側）および他端部側（後端側）を挟持可能である。本実施形態では、リング 4 0 の内周部が特許請求の範囲にいう係止部として機能する。

【 0 0 4 1 】

本実施形態によれば、化学発光体 3 0 をリング 4 0 , 4 0 の弾性を利用して挟持することができ、化学発光体 3 0 の装着性に優れるとともに、取り外し性にも優れるという利点が得られる。

10

また、軸方向の滑り止め効果が高まり、化学発光体 3 0 の脱落を好適に防止することができる。

なお、保持片 2 3 d , 2 3 d の開口 2 3 e は、前方へ向けて形成されているので、取り外し性を有しながらも、リトリブ時の水流を受けて外れるおそれがない。

【 0 0 4 2 】

（第 3 実施形態）

図 4（a）に本発明の第 3 実施形態のルアーの要部を示す。

本実施形態に係るルアー 1 が前記第 1 実施形態と異なるところは、保持手段 2 0 が、リング状の保持部 4 1 , 4 2 を備えて構成されている点にある。

リング状の保持部 4 1 , 4 2 は、ルアー本体 1 0（不図示）の前後方向に間隔を空けて固定部材 2 3 にそれぞれ設けられており、化学発光体 3 0 の軸方向の一端部側（前端側）および他端部側（後端側）を保持可能である。保持部 4 1 , 4 2 の内径は、装着されることが想定される化学発光体 3 0 のうち、最大の直径（外径）を備えた化学発光体 3 0 の直径よりも大きくなるように設定されており、保持部 4 1 , 4 2 の内側には、挿通される化学発光体 3 0 との間に隙間 S 2（保持した際に生じる隙間）が形成されるようにしてある。

20

【 0 0 4 3 】

固定部材 2 3 は、上方へ湾曲形成されており、保持部 4 1 , 4 2 に挿通された化学発光体 3 0 を湾曲した状態で保持するように構成してある。

【 0 0 4 4 】

このような保持手段 2 0 において、保持部 4 1 , 4 2 に化学発光体 3 0 を挿通して保持すると、図 4（b）に示すように、固定部材 2 3 上で保持部 4 1 , 4 2 に挿通された化学発光体 3 0 が湾曲した状態となり、各保持部 4 1 , 4 2 において、上下の開口縁部 4 1 a , 4 2 a（係止部として機能する部分）が、化学発光体 3 0 の外周面にそれぞれ対角状に喰い込むようにして当接（挟持）する。これによって、各保持部 4 1 , 4 2 において化学発光体 3 0 が挟持されるように保持されることとなる。

30

【 0 0 4 5 】

本実施形態によれば、化学発光体 3 0 可撓性、弾性を利用し、各保持部 4 1 , 4 2 に挟持されるようにして、太さや長さの異なる種々の化学発光体 3 0 を装着することができる。これにより、視認性に優れて使い勝手のよいルアー 1 が得られる。

40

【 0 0 4 6 】

図 4（c）（d）に第 3 実施形態の変形例を示す。

この例では、図 4（c）に示すように、保持部 4 1 , 4 2 の軸方向内側位置にリング 4 3 , 4 3 がそれぞれ配置され、保持部 4 1 , 4 2 に化学発光体 3 0 を保持する際に、これらのリング 4 3 , 4 3 を化学発光体 3 0 に外嵌するようにしたものである。

このような保持手段 2 0 において、化学発光体 3 0 に外嵌したリング 4 3 , 4 3 は、図 4（d）に示すように、各保持部 4 1 , 4 2 の内側に移動させて留めおかれるようにする。

【 0 0 4 7 】

このようなリング 4 3 , 4 3 を用いることにより、化学発光体 3 0 の軸方向の移動が

50

好適に抑えられるようになり、化学発光体 30 の脱落をより効果的に防止することができる。

【0048】

なお、リング 43, 43 は、保持部 41, 42 の内側面に当接する外径を有するものとしたが、これに限られることはなく、保持部 41, 42 と化学発光体 30 との間に形成される隙間 S2 の大きさによっては、隙間 S2 にリング 43, 43 の一部が入り込むようにして留めおかれるようにしてもよい。この場合にはリング 43, 43 が係止部として機能することとなる。

【0049】

図 5, 図 6 に参考例を示す。

10

図 5 (a) に示す例では、ルアー本体 10 の前端上面に前後方向に延びる凹溝 14 を形成し、この凹溝 14 内に正面視略 U 字形状の保持部 21A, 22A を配置したものである。

凹溝 14 は、化学発光体 30 を収容可能な大きさを有しており、保持部 22A (21A) は、収容後に、上端部 22a' (図 5 (c) 参照) を化学発光体 30 の外周に向けて加締めてもよい。

なお、長さの短い化学発光体 30A を収容する際には、図 5 (a) に示すように、凹溝 14 内の略中央部に追加の保持部 25 を配置して、例えば、保持部 25 と保持部 22A とで化学発光体 30A を保持するようにしてもよい。

【0050】

20

図 6 (a) に示す例では、固定部材 23 の後端部側にキャップ状の保持部 26 を設け、この保持部 26 に化学発光体 30 の後端部を挿入して保持するようにしたものである。

保持部 26 は、化学発光体 30 の後端部を挿入可能な大きさを有しており、化学発光体 30 の後端部を保持できる程度に、化学発光体 30 の後端部の外径よりも大きくされた内径を有している。

【0051】

この例では、キャップ状の保持部 26 の内側 26b に挿入するだけで化学発光体 30 の後端部を保持することができ、化学発光体 30 の装着性がよい。また、化学発光体 30 の装着時には、保持部 26 に化学発光体 30 の後端部を挿入して保持しておいてから、他方の保持部 21 に前端部側を装着してこれを挟持するという装着手法を採ることができるので、装着時に不意に外れて脱落してしまうようなことがなくなり、装着性が向上する。

30

なお、これとは逆に、固定部材 23 の前側にキャップ状の保持部 26 を設け、後側に保持部 22 を設けてもよい。

【0052】

また、図 6 (b) に示す例は、保持部がルアー本体 10 の前後方向に沿って上方へ向けて突設された金属製や樹脂製の対向壁部 21c, 21c からなり、対向壁部 21c, 21c 間で化学発光体 30 を挟持可能としたものである。対向壁部 21c, 21c は、ルアー本体 10 の上部に図示しないねじや接着剤を用いて直接固定されている。対向壁部 21c, 21c には、内側へ突出する突出部 21d, 21d (係止部として機能する部分) が設けられており、この突出部 21d, 21d で、対向壁部 21c, 21c 内に挿し込まれた化学発光体 30 を抜け止め可能に係止することができるようになっている。

40

この例においても、太さや長さの異なる種々の化学発光体 30 を装着することができ、視認性に優れて使い勝手のよいルアー 1 が得られる。

【0053】

また、図 6 (c) に示す例は、ルアー本体 10 の前端上面に前後方向に延びる凹溝 14a (保持部) を形成し、この凹溝 14a 内に化学発光体 30 を収容した後に、係止部として機能するバンド 28, 28 を化学発光体 30 の上に係止したものである。バンド 28 は、接着剤や貼付によって取付可能であり、化学発光体 30 の軸方向に直交する方向 (上方向) から凹溝 14a 内に化学発光体 30 を押え付けるようにして挟持し、凹溝 14a 内に化学発光体 30 を抜け止め係止する。

50

なお、凹溝 1 4 a の前後方向の中央部分の 1 箇所で、バンド 2 8 a によって係止してもよく、また、長さの短い化学発光体 3 0 (不図示) を収容する際等に、バンド 2 8 a を利用してもよい。

この例においても、太さや長さの異なる種々の化学発光体 3 0 を装着することができ、視認性に優れて使い勝手のよいルアー 1 が得られる。

【 0 0 5 4 】

さらに、図 6 (d) (e) に示す例では、ルアー本体 1 0 (例えば樹脂製) に一体的に保持部 2 7 , 2 7 を突設し、この内面に突起 2 7 a , 2 7 a をそれぞれ設けたものである。

この例においても、太さや長さの異なる種々の化学発光体 3 0 を装着することができ、視認性に優れて使い勝手のよいルアー 1 が得られる。

また、突起 2 7 a , 2 7 a で保持部 2 1 , 2 2 内に挿し込まれた化学発光体 3 0 を押さえることができ、化学発光体 3 0 の脱落を好適に防止することができる。

【 0 0 5 5 】

なお、前記した各実施形態や参考例等において、保持部 2 1 , 2 2 等の大きさや間隔を適宜変更することによって、さらに種々の太さや長さを備えた化学発光体 3 0 を好適に装着することができる。

【 0 0 5 6 】

また、参考例として、正面視略 U 字形状に形成した保持部をルアー本体 1 0 の前端上面に、前後方向にそれぞれ直接取り付け、太さや長さの異なる種々の化学発光体 3 0 を装着するようにしてもよい。

また、参考例として、正面視略 U 字形状に形成した保持部とキャップ状に形成した保持部 2 6 (図 6 (a) 参照) とをルアー本体 1 0 の前端上面に、前後方向にそれぞれ直接取り付け、太さや長さの異なる種々の化学発光体 3 0 を装着するようにしてもよい。

【 符号の説明 】

【 0 0 5 7 】

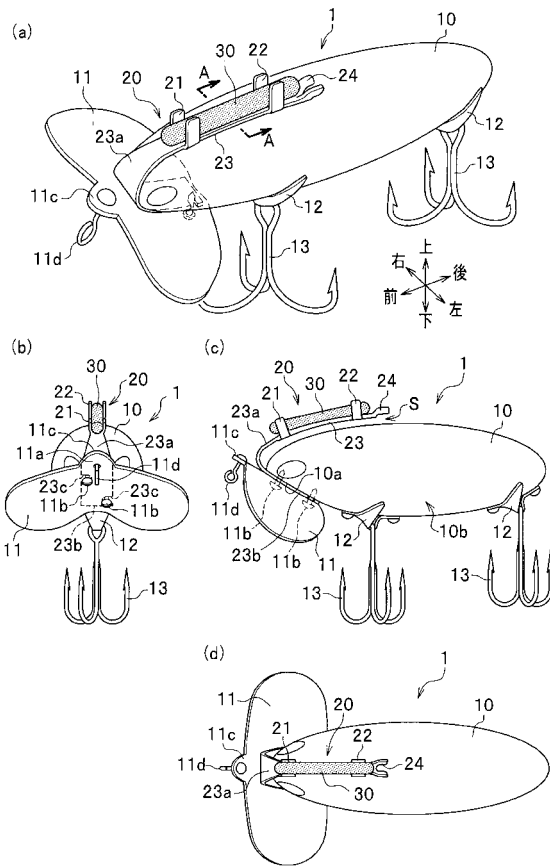
- 1 ルアー
- 1 0 ルアー本体
- 1 4 凹溝
- 2 0 保持手段
- 2 1 , 2 2 保持部
- 2 1 A , 2 2 A , 2 1 B 保持部
- 2 2 a 折り曲げ代
- 2 3 固定部材
- 2 5 , 2 6 , 2 7 , 4 1 保持部
- 3 0 , 3 0 A 化学発光体
- 4 0 Oリング

10

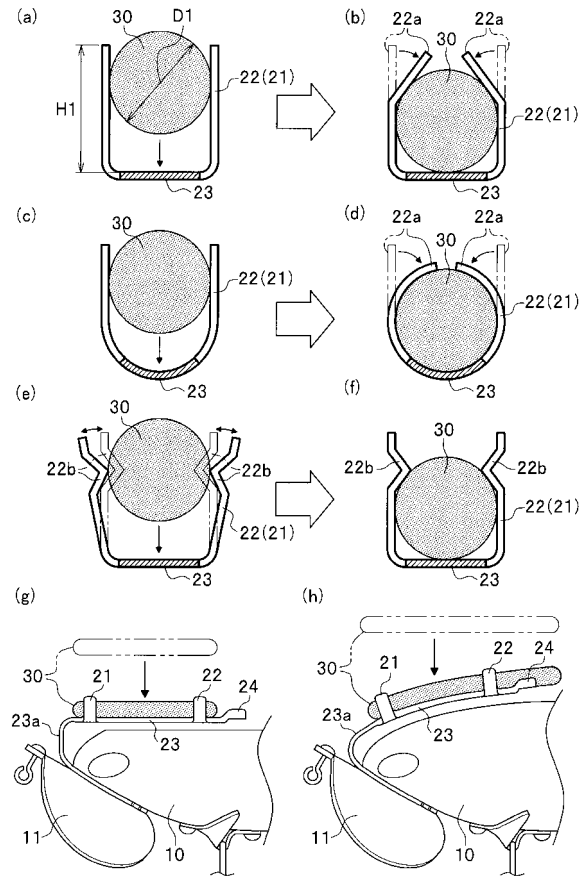
20

30

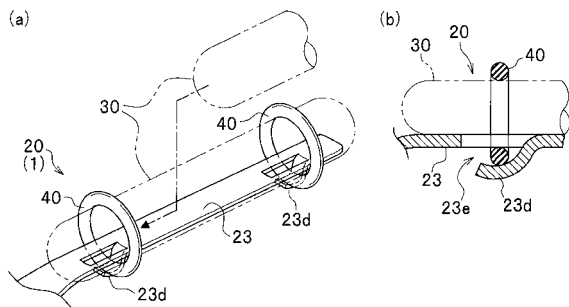
【図 1】



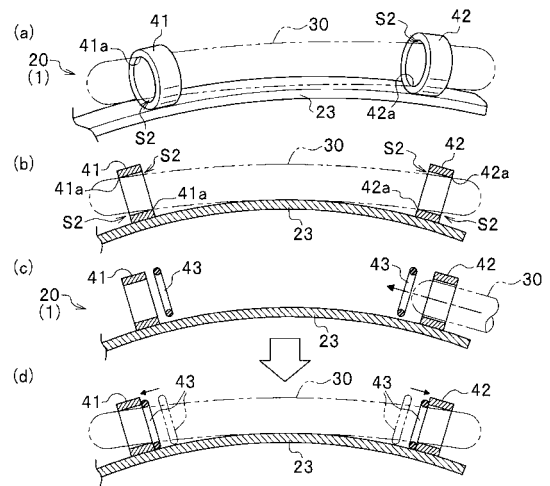
【図 2】



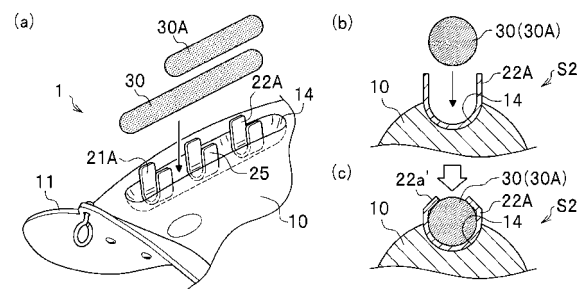
【図 3】



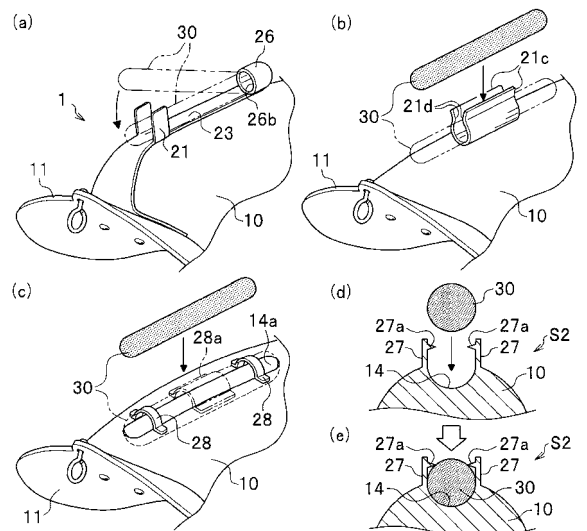
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2002-300832(JP,A)
登録実用新案第3013315(JP,U)
実開平07-021749(JP,U)
実開平06-013466(JP,U)
特開平08-009851(JP,A)
特開2000-004741(JP,A)
特開2004-275164(JP,A)
特開平01-128739(JP,A)
実開平01-024977(JP,U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A01K 85/00-85/18